

青柳 絵美

AOYAGI, Emi

感情の光

Light of feelings



真夜中のパレード
Midnight parade
水性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
60.8 × 91.5 cm



星に願いを
Wish upon a star
水性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
91.5 × 120 cm

私は、日々の出来事で見たもの、生まれた感情をきっかけに、新しい物語を作っている。その物語には光は欠かせない。

感情は時間が経つにつれ、変わっていく。迷っていた気持ちに答えが見つかった時。変わりたいと強く願った時。変身をする時に光を帯びるように、溶けだした感情は、私の中で形を変えては光りだす。いろいろな色の光が重なると白色光になるように、私の感情を置き換えた色が沢山重なり合うと、白く光輝くのだ。そしてまた、新たな光を求め、変わり続けるのである。

修了論文：光を求めて / Wish for light

石塚 俊介

ISHIZUKA, Shunsuke

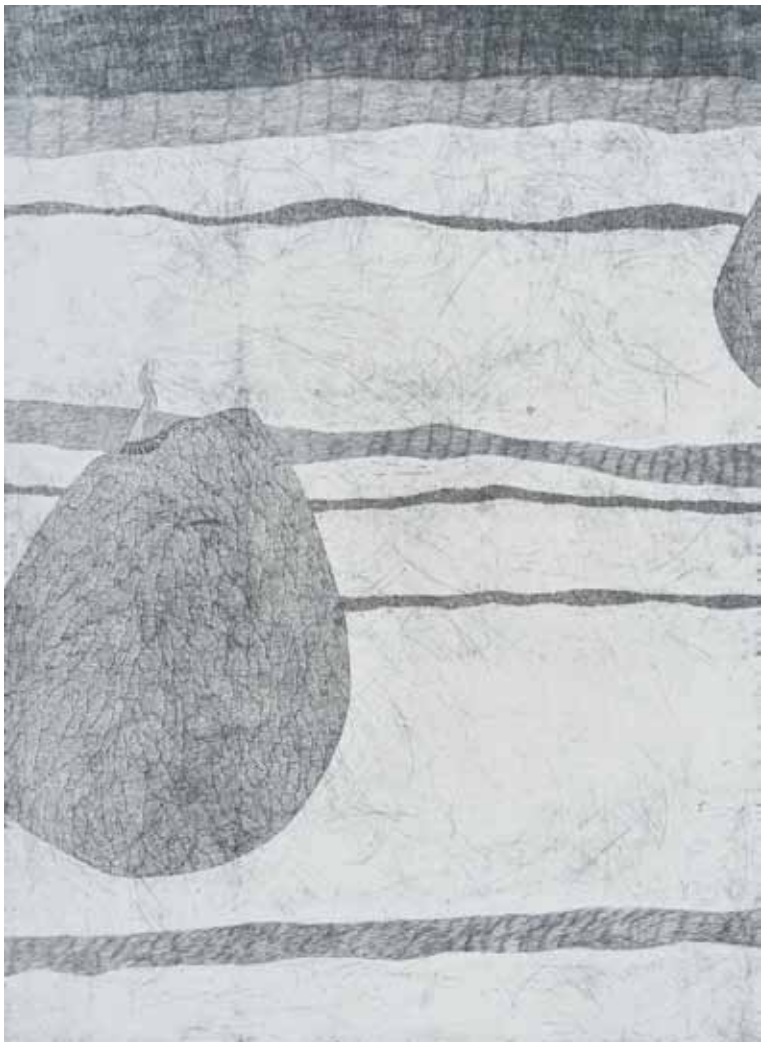
種子の形について

About the shape of seeds

私は植物の種をモチーフにして、銅版画を制作しています。イメージの部分では修了制作作品の四点は、世界の様々な地域や環境に実在する種が持つ形や質感を大事にしつつ、デフォルメを加えたことでインパクトの強い作品になりました。

このインパクトは、私が「土の中シリーズ」を制作するきつ

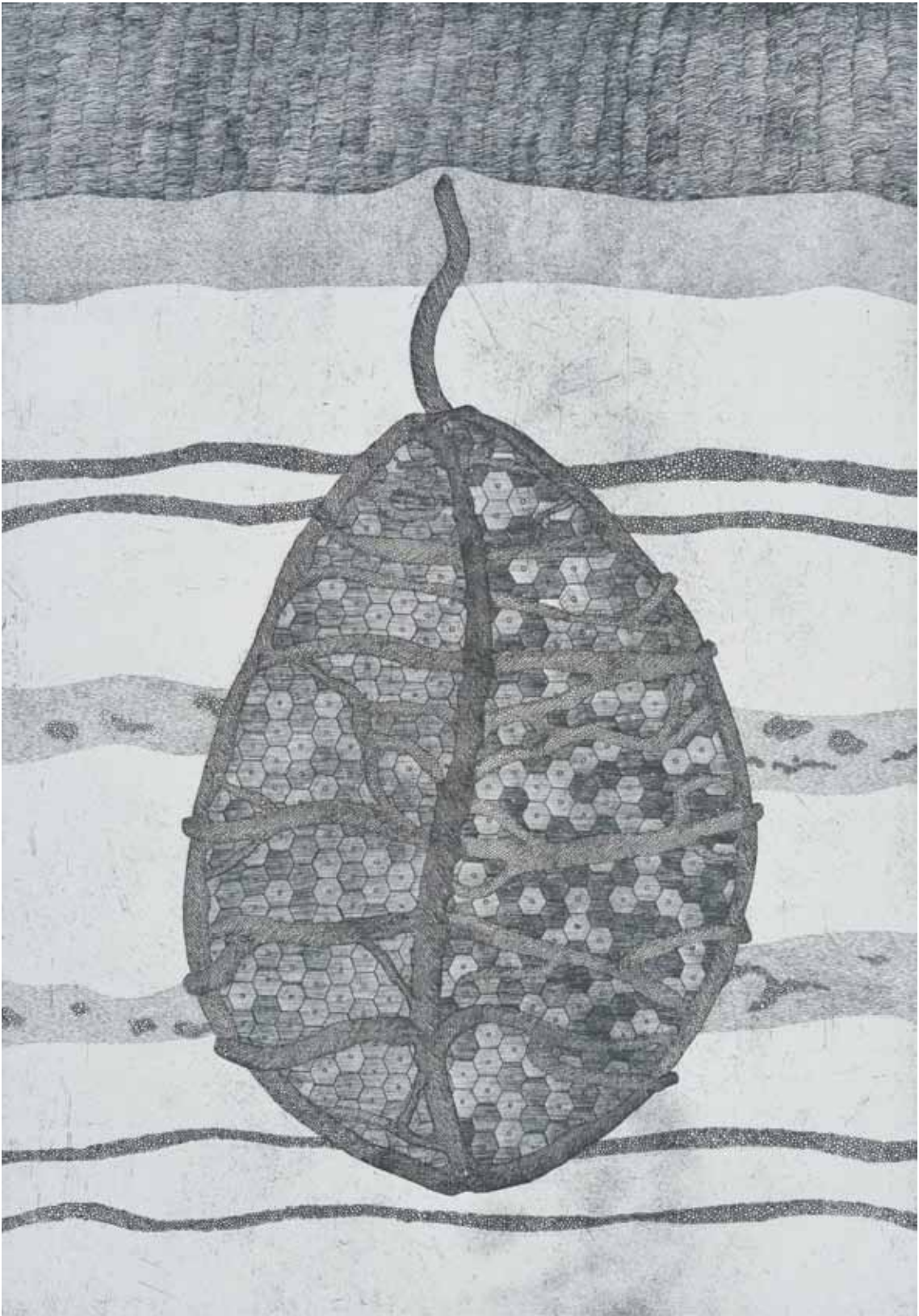
かけとなった、ドングリに対する子供と大人との間にある捉え方・熱量の違いへの、答えの一つになります。ドングリー一つの差異や面白さを作品にする方法もありましたが、私が子供と同じ様に興味を持つことができたこれらの種をモチーフに選びました。



土の中 8 / In soil 8
 エッチング / 洋紙（アルデバラン） / Etching on paper / 60 × 45 cm

修了論文：銅版画の版表現（描画方法等）と植物の種（モチーフ）について

Depiction of etching and seeds of plants



土の中 5 / In soil 5
 エッチング / 洋紙（アルデバラン） / Etching on paper / 50 × 35 cm

沖山 寛子

OKIYAMA, Hiroko

人と自然への憂い

Grief to the human being and nature



Human hat
 エッチング / 洋紙（ペランアルシュ）
 Etching on paper
 47 × 60 cm

私のあらゆる作品における大切なテーマは人と自然である。しかし人と自然の共依存や動物愛護、自然回帰の類いをうたっているわけではない。現在の消費社会、文明の恩恵である豊かな生活を支える為に蝕まれているものは、地球の資源だけではない。虫や動植物も含め、人の心や体

も等しく病んでいると考えている。もし文明の終末、この世の終わりがあるならば、現状を「アンニユイ」な目線で見つめたい。そのまなざしは世界の破綻を悲しみ後悔し嘆くのではなく、未来への祈りとも異なる。人と自然の様を沈潜し、その姿を銅版画作品として制作する。



兜 / War helmet
 エッチング / 洋紙（ペランアルシュ）
 Etching on paper
 47 × 60 cm

修了論文：アンニユイな視線―人と自然を見つめて―

Glances with ennui : Staring at people and scenery

尾島 綾

OJIMA, Aya

木版における構築

Construction in woodcut



Oc-005
水性木版、油性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
85 × 115 cm

「気づき、捉える。」
重なり連続する領域を形作ること、それがこの変化を追求する鍵である。
自ずと起こり、移ろい行くそのただ中で構築された形。
追求することでこの輪郭を定めようとする。
つくることにおいて、見ることは気づくこと。つくことは捉えることである。

私の捉えるもの。それはこの日常のただ中で常に存在しているものである。
「気づき、捉え、これを定める。」
つくることではしか現れることの無いもの。
常に捉えることでしか気づけないものを「分かる」ために。



Oc-006
油性木版 / 和紙
Woodcut on Japanese paper
60 × 90.5 cm

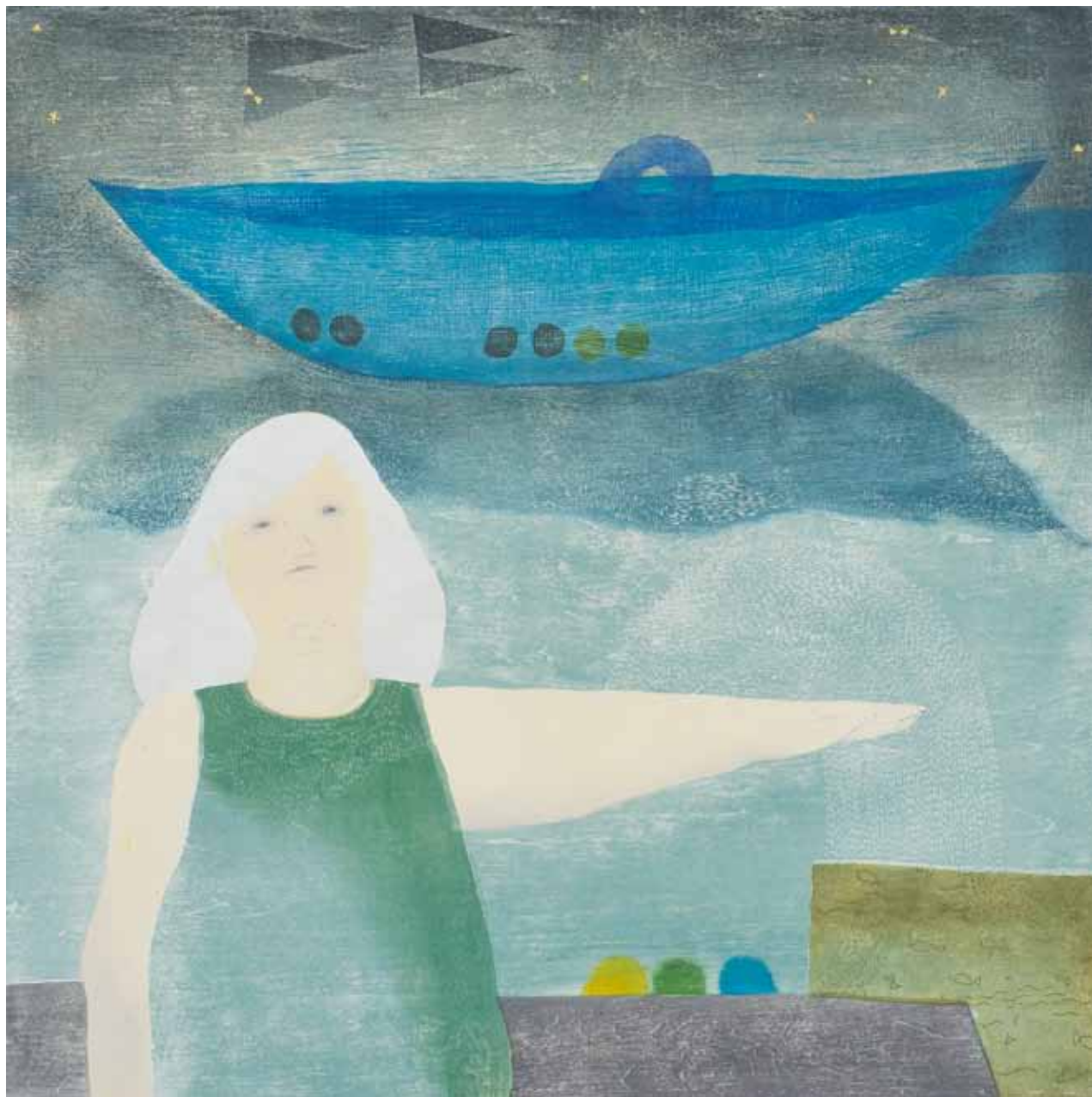
修了論文：イメージの構築
Construction of image

川村 紗耶佳

KAWAMURA, Sayaka

木版画における記憶と距離の表現

Expression of memory and distance in woodcut



よい旅を / Bon voyage

水性油性併用木版、和紙 / Woodcut on Japanese paper / 70 × 70 cm

私は「記憶」を作品のテーマにしている。水性木版画の技法を用い、和紙に記憶のイメージを摺り取ることで、触ることのできる形として「記憶」を残していく。

大切な記憶について考えた時、作品を通して、もう一段階先を見る事ができないか。このことをこれからの制作に

おいて試みていきたい。「記憶」という言葉から「形」へ。この言葉が、これからの私の作品制作の軸になるだろう。

修士論文では、自身の作品とともに、記憶を形にする意味を論考した。

修了論文：記憶と距離を巡って

About memory and distance



私たち二人で / Two of us

水性油性併用木版、和紙 / Woodcut on Japanese paper / 91.5 × 91 cm

杉田 早紀

SUGITA, Saki

軽やかな空虚としての人物肖像

Portraits of persons as an airy vacancy



Same one for No one (Kamakura)
 油性木版 / 洋紙 / Woodcut on paper
 60.5 × 45 cm



Same one for No one (New York)
 油性木版 / 洋紙 / Woodcut on paper
 60.5 × 45 cm

修了論文：現代の肖像表現と版表現の相乗関係の考察―版表現における人物肖像―

Consideration on the synergistic relationship between the expression of modern portraits and printmaking :
 Portraits of persons in printmaking

人間の作り出す「芸術」と呼ばれる創造の歴史、その膨大な数の美術作品の中に、「人間の肖像」をモチーフとして扱った作品が存在する。私は制作において、版画表現を用いた人物の肖像表現について注視し、木版画技法という「表層」に帰結する彫りと刷りが織りなす、肖像表現との相乗効果

を生み出す唯一性に魅了され、制作を続けた。

木版画における色面とは爽やかな空虚の増幅である。彫刻刀の版上の動的な彫り跡は、紙の上では裏腹に空白へとその姿を変える。木版技法を用いて人物を表現する事は、これらの静寂かつ獐猛な逆説と向き合う行為である。



Same one for No one (Hanoi)
 油性木版 / 洋紙 / Woodcut on paper
 60.5 × 45 cm

小林 麻美

KOBAYASHI, Asami

理想郷の実現

Realization in utopia



入国審査官／憩
Immigration procedure authorities / Relaxation
リトグラフ / 洋紙
Lithograph on paper
98 × 125.5 cm



視線
The eyes
リトグラフ / 洋紙
Lithograph on paper
64 × 79 cm

修了論文：理想郷の実現

Realization in utopia

私は『理想郷の実現』をテーマに作品を制作している。普遍的に平和な世界を構築するために、ルールを定め理想の世界を描いている。理想郷は外部からの文化、思想、文明等の干渉や影響を受けない、独立し閉鎖された地域であり、私たちが生活する人間社会と別の空間を指す。また、私の制作テーマにおける理想郷は動物達の楽園であり人間は存在しない。宗教的概念のない世界であり、争いのない平和な世界である。羊は理想郷の平和の象徴として描いている。

靳 沐之

JIN, Muzhi

メゾチントの技法研究と質感表現

Techniques and representation of texture in Mezzotint

メゾチント技法を使用し作品を制作する。白と黒の間に生れる調子の響きを利用してモノの質感を表現している。そう単純な白黒だけでない、明暗の段階や濃淡で質感を表現できるメゾチントの黒のひろがりが好きだ。このようなメゾチント独特の調子を使い、写実的な作品を描く。私の作品は魚を主にモチーフとし、他の異なった質感を組み合わせ、表現している。その中で、技術習得と合わせて、技術における表現力と芸術の表現とはどちらがより重要なのかという解答のない問いを追っている。



生存2014-2
Existence 2014-2
メゾチント / 洋紙 (いづみ)
Mezzotint on paper
23.5 × 45 cm



生存2014-3
Existence 2014-3
メゾチント / 洋紙 (いづみ)
Mezzotint on paper
23.5 × 45 cm

修了論文：メゾチントの技法研究と作品創作について—イメージが先か、技術が先か—

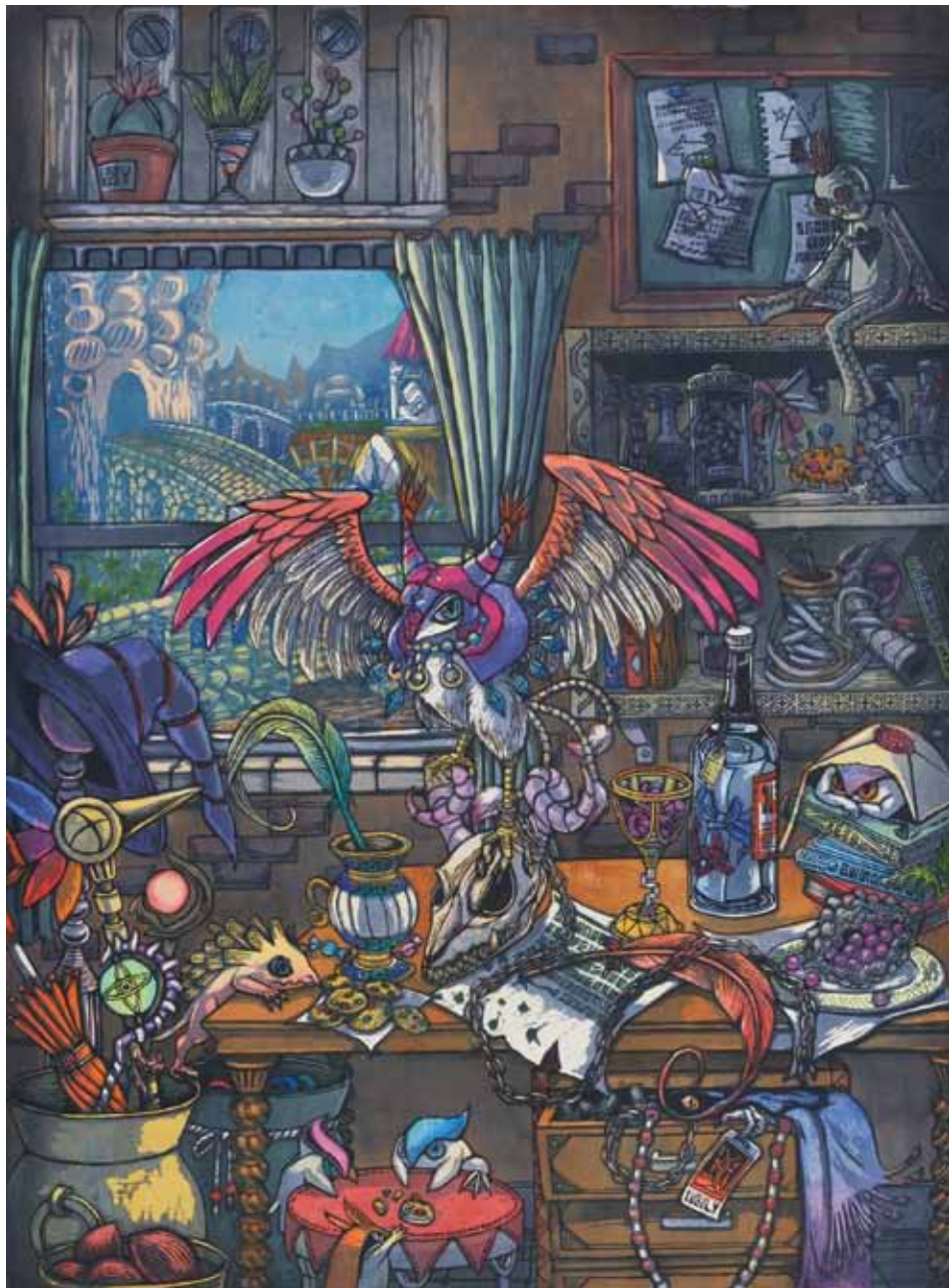
Techniques and creation in Mezzotint: Image or technology ?

瀧本 友里子

TAKIMOTO, Yuriko

夢が美術作品に与える影響

The influence a dream gives to a work of fine arts



Short answer

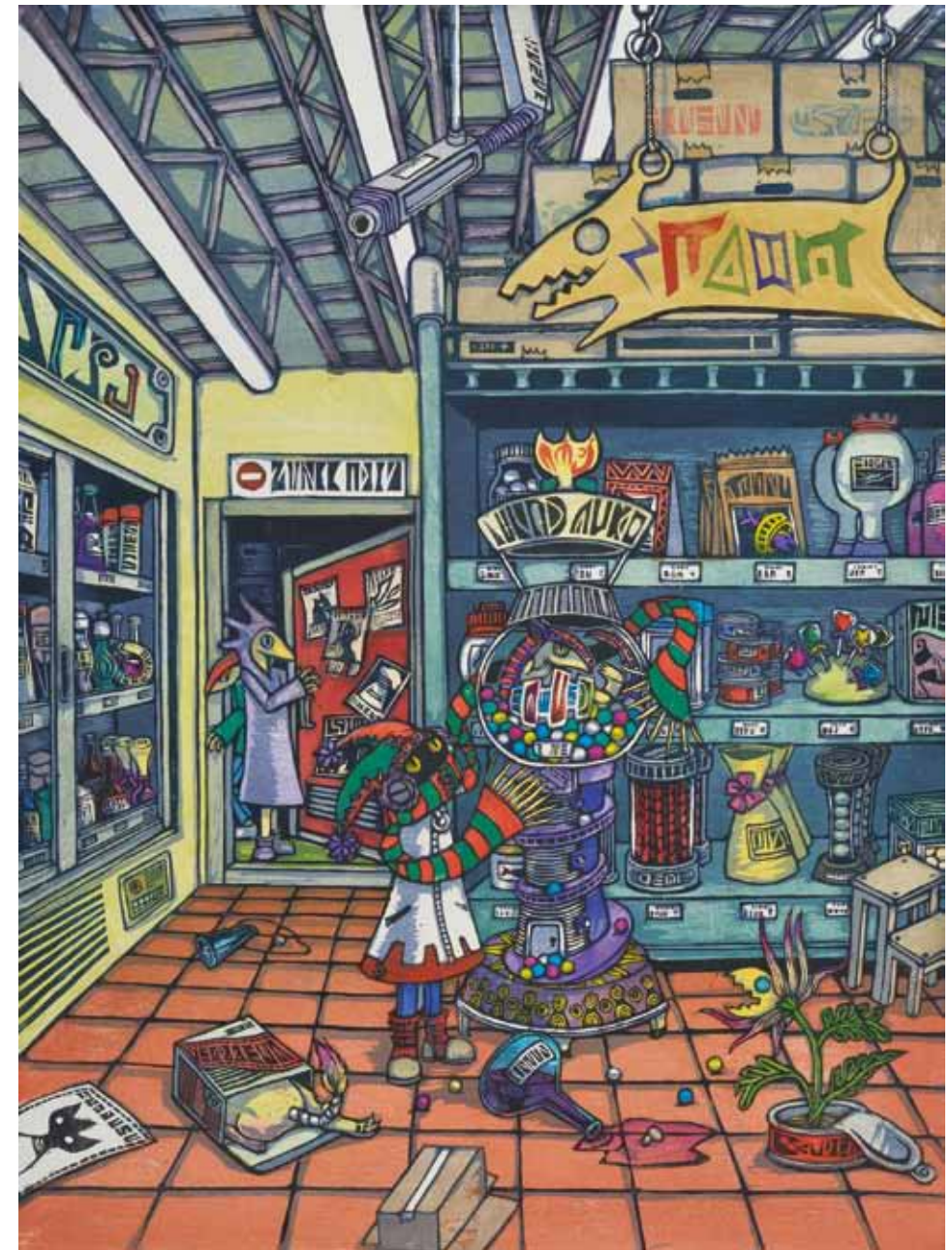
水性木版 / 和紙 / Woodcut on Japanese paper / 121 × 90 cm

自分の作品の世界観は寝ているときに見る夢の世界に近いのではないかと思い、このテーマを選んだ。夢は見るとものを不安にさせることがある。だが、夢の中にいるときと目が覚めた時の印象は異なっていることが多い。例えば怖い夢を見たと思ったのに冷静に思い出してみれば何が怖かったのか理

解出来なかったり、あるいはその逆に非常に奇妙な世界にいるのに平然と暮らしている夢を見ることもある。そのことから意識のある状態と無意識下の考え方の違いに興味を持ち、それを作品の世界観の構築に生かしていくために深く掘り下げていきたいと思う。

修了論文：夢と芸術—あるいは夢に見る真実—

A dream and art, or the truth to look in a dream



SSDDS / Self-service discount department store

水性木版 / 和紙 / Woodcut on Japanese paper / 77 × 57 cm

武田 圭以都

TAKEDA, Keito

真実としての虚像

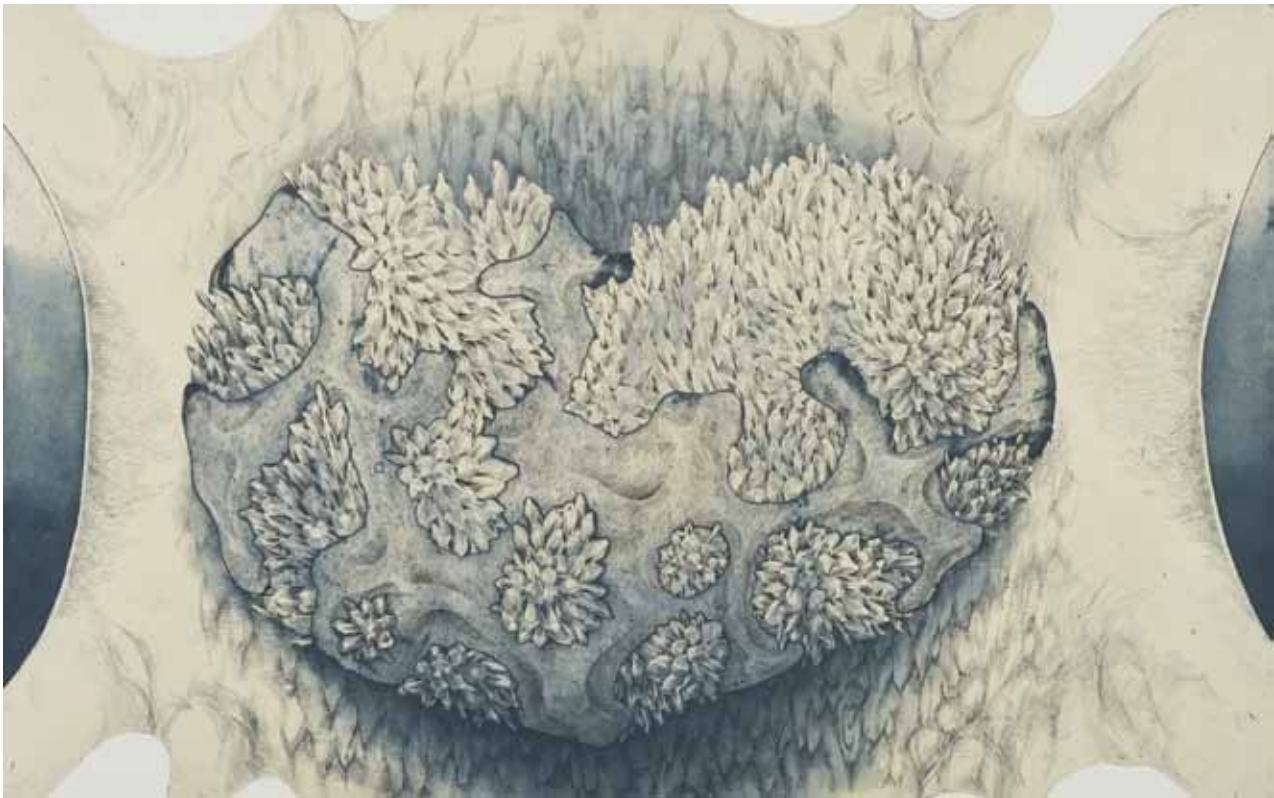
Virtual image as truth

記憶の真実性と曖昧な現実をテーマに、現実ではありえない形を現実で体験してきた記憶をたよりにリアルに描く、半抽象的な絵の矛盾を見たとき鑑賞者はなにを思うのか。

物事を決められた通りに捉えられなかった瞬間、そして正体が分かった時の動揺。その瞬間の不思議な浮遊感と、

正体がわかった時の現実感。その矛盾から生じる強烈な感覚を銅版画作品を見ることによって感じてほしいと思い、制作を続けている。

私自身も作品を通して多くの人や物の価値観を知ること、新たな視野で常に前進し続ける。



蟲く臓 / Wriggle viscera
エッチング、アクアチント / 洋紙（ハーネミュレ） / Etching and aquatint on paper
50 × 80 cm



夢見花 / Dreamed flower
エッチング、アクアチント / 洋紙（ハーネミュレ） / Etching and aquatint on paper
70 × 50 cm

修了論文：記憶とリアリティ / Memory and reality

長坂 梨七子

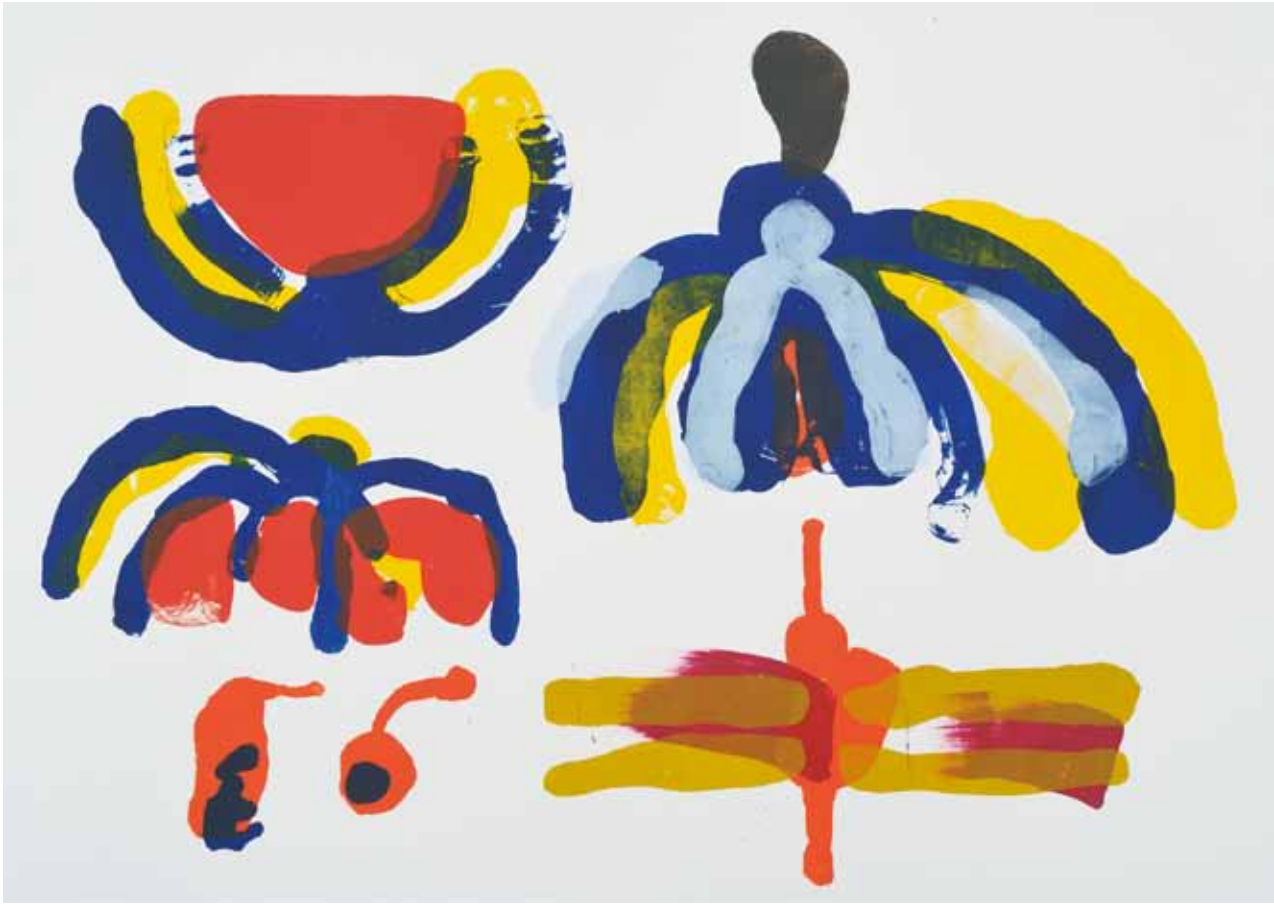
NAGASAKA, Rinako

純粋芸術の起点と表現

The starting point and expression of pure art

なぜ、人間は絵を描くのだろう。
なぜ、人間はものを作るのだろう。
なぜ、人間は空を仰ぎ見るのだろう。
多くの人が考えてきたであろう、これらの問いに対する答えはあるのだろうか。明確な答えはないのかもしれない。私は自分なりの答えを求めて、絵を描き、ものを作り、刻一刻と

変化する空を眺めるのだ。
私が描くものは「人の形をしたようなもの」と文字や記号を組み合わせたものから、身の回りにあるもの、そして旅先で見た風景へと変化している。自身の制作の過程や、そうした作品の背景を、実際の作品と照らし合わせながら、制作ノートとして綴っていき、純粋な芸術表現に関する考えを深める。



Hana
リトグラフ / 洋紙 / Lithograph on paper / 70 × 100 cm



Kai
リトグラフ / 洋紙 / Lithograph on paper / 100 × 70 cm

修了論文：純粋芸術の起点と表現 / The starting point and expression of pure art

福原 禎子

FUKUHARA, Teiko

記憶と痕跡のイメージ

The image of remembrance and traces

自分の持ち物や両親を含め回りのものを見つめ、言葉は生まれた。その言葉はイメージを創る。イメージは実体ではないが生々しく、色鮮やかだ。そのようななか私が感じたものは何だったのだろう。そう考えた時、「記憶」と「痕跡」について興味を持った。

版に残る痕跡は面白い。紙に刷り取ると、「痕跡」はひとつひとつ異なる表情をし、現れてくる。版が表現する出来事や痕跡は、ものを見つめた時、目の前に現れる強烈なイメージとなにか関わりがあると感じられた。「記憶」と「痕跡」がどのように作品の中で広がり、言葉とイメージを創るか考察している。



G-Meer
リトグラフ / 洋紙
Lithograph on paper
65 × 187 cm

修了論文：記憶の痕跡とその表現

Traces of remembrance and representations

古川 ゆめの

FURUKAWA, Yumeno

心情の視覚化

Visualize human feelings



言葉が思い出をよみがえらせる

The memories revive with a word

エッチング、手彩色 / 洋紙（ワトソン）

Etching, colored by hand with watercolor on paper

59.2 × 78.8 cm

自らが選択した表現行為を何故人に提示するのだろう。
作品は時として個人的なエピソードが綴られた日記の様に
極めて身勝手な、作り手の営為の産物と映るかもしれない。
しかし、現実には一社会で生きる人の手によって生まれ、
社会の思考を孕んでいる事は問うまでもない。

つまり、例え一個人の記憶であったとしても、社会に内包されているのは自明である。

私は、制作活動を社会の情景を掬い取る行為と捉え、
自らが生きる中で得た心情の視覚化を目的とした絵画表現を行っている。



穏やかな対話

One gentle conversation

エッチング、手彩色 / 洋紙（ハーネミュレ）

Etching, colored by hand with watercolor on paper

49.9 × 64.5 cm

修了論文：作品を通じて見えてくるもの

What you see through art works

嶺山 夏海

MINEYAMA, Natsumi

成長とエディション

Growth and editions



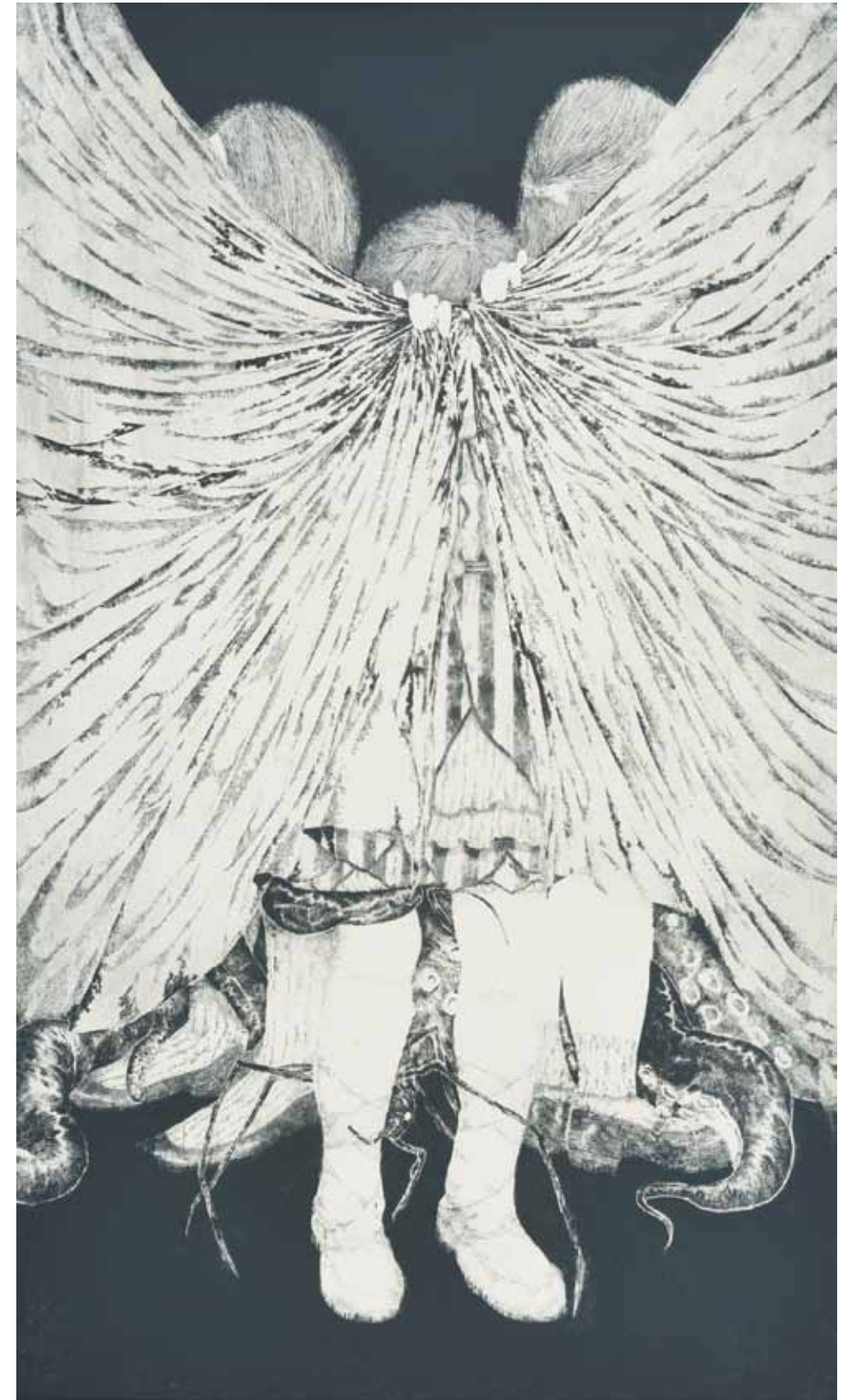
Universe
エッチング / 洋紙 (ハーネミュレ) / Etching on paper / 45 × 60 cm

今回の論文では「アイドル」をテーマにしました。
「アイドル」というのは「成長」が決してポジティブな意味ではないところが面白くも、悲しい所で、求められているのは完璧さやプロフェッショナルではありません。未成熟な

伸びしろ、未来への希望が感じられる存在です。

そのような感情をモチーフにメディアの一種として、版を介し、時に制作者の手から離れた表情や意図を表現することが可能である版画で彼女達の魅力を描いています。

修了論文：アイドル創造論 / "Idol" creationism



蝶の燐光 / Butterfly twinkle
エッチング / 洋紙 (ハーネミュレ) / Etching on paper / 99.5 × 59.5 cm